



"アクティブファンドとパッシブファンドについて"

一般社団法人確定拠出年金推進協会

2021/10/08 配信

DC ニュースレター

運用商品である投資信託には「アクティブファンド」と「パッシブファンド」の2種類があります。2つの違いについて確認しましょう。

アクティブとパッシブの違いとは

それぞれのファンドには主要な投資対象があり、その投資対象に含まれる銘柄から個別に選択して分散投資します。個別銘柄のリターンは結果として良いものもあれば悪いものもあるので、どの銘柄に投資したかによってファンドの運用成果には優劣が生じます。

ここで、ファンドの運用方針は大きく2つに分かれます。

1つは勿論、高い運用成果を目指そうとするもので、この方針のもと運用されるのが「アクティブファンド」です。

さてここで問題となるのが、何をもって「高い運用成果」と評価するかということです。例えば、ある年に10%を超える運用成果を挙げたとしても、市場全体が大きく上昇している場合には、相対的にみると必ずしも高い運用成果とは言えないかもしれません。反対に、仮にマイナスのリターンだった場合でも、市場全体が大きく下落している場合には、相対的にみると必ずしも悪い運用成果とは言えないかもしれません。そこで、市場平均のリターンと比べることでファンドの運用成果の優劣を評価しようとする考え方が広がりました。アクティブファンドは、市場平均と考えられる指数をベンチマーク(比較指標)として定め、これを上回る運用成果を目指すことが一般的になりました。(なお、テーマ性の強いアクティブファンドには、あえてベンチマークを定めないものもあります。)

アクティブファンドとパッシブファンドの特徴

	アクティブファンド	パッシブファンド
運用方針	ベンチマークを上回る(もしくはベンチマークにとらわれない)運用成果を目指す	あらかじめ定めた指数(ベンチマーク)に連動する値動きを目指す
運用成果	市場平均を上回ったり下回ったりする	市場平均並み
コスト(信託報酬)	パッシブファンドよりコスト高	低コスト



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら

TEL 03-5689-3358

MAIL 401k@member.deco-pa.com

一般社団法人確定拠出年金推進協会
東京都文京区後楽 2-2-14 トークスビル 1F

<https://www.deco-pa.com>



さて、もう1つの運用方針ですが、こちらは運用成果の高低の競争を行わず、最初から市場平均並みの運用成果を目指そうとするものです。この方針のもと運用されるのが「パッシブファンド」です。

前出のアクティブファンドは、運用成果により市場平均を下回るリスクがあります。ならば、無理をせず最初から市場平均並みのリターンを目指そうという考えです。パッシブファンドでは、あらかじめ定めた指数(ベンチマーク)に基準価額が日々連動するように運用を行います。指数は英語でインデックスと言うため、多くは「〇〇インデックスファンド」の名称が付いています。(なお、テーマ性の強いパッシブファンドには、市場平均とは異なる類の指数をベンチマークとするものもあります。)

パッシブファンドは、アクティブファンドと比べると独自性が乏しいことや、運用に係る費用が比較的軽微であることから、加入者が負担するコスト(信託報酬)は低コストであることが一般的です。

アクティブファンドとパッシブファンドの選択状況

アクティブファンドは、ファンドの特色にそれぞれ独自性があり、運用成果に優劣が生じるため、どのファンドを選ばよいか難しく感じる方もいらっしゃるでしょう。一方のパッシブファンドは、市場平均並みの運用成果を目指そうとするものであることから、主要な投資

対象が何かを認識さえすれば、ファンドの特色を理解することは比較的容易です。

こうした事情の下、確定拠出年金では、選びやすいパッシブファンドを多めに配分している加入者が多いようです。

業界団体の調べによると、企業型 DC におけるアクティブファンドとパッシブファンドの選択状況では、全体としてパッシブファンドを選択する比率の方が高いです。ただし、国内株式型ではアクティブファンドを選択する比率もかなり高く、パッシブファンドと大差はありません。

商品性を理解しやすく、低コストで運用成果も無難なパッシブファンドを選ぶ加入者が多いのは頷ける調査結果です。その一方で、加入者の関心が高く、加えてパフォーマンスの優れたファンドが比較的多いとされる国内株式型で、アクティブファンドを選択する割合が多いのは注目されます。より高い運用成果を上げるために、高い関心を持ってファンドを選択する加入者の姿勢が覗えます。

近年、外国株式型への関心が高まっており、プランによってはパフォーマンスの優れた外国株式型ファンドも徐々にラインアップされつつあるそうです。今後は、外国株式型でアクティブファンドを選択する加入者が増えるかもしれません。

企業型 DC におけるアクティブファンドとパッシブファンドの選択状況

(2020.3末)

	国内株式型		国内債券型		外国株式型		外国債券型		バランス型	
	アクティブ	パッシブ	アクティブ	パッシブ	アクティブ	パッシブ	アクティブ	パッシブ	アクティブ	パッシブ
資産額(億円)	6,804	7,904	1,044	7,310	2,619	8,644	828	5,024	5,579	18,219
割合	46.3%	53.7%	12.5%	87.5%	23.3%	76.7%	14.2%	85.8%	23.4%	76.6%

(出典) 運営管理機関連絡協議会「確定拠出年金統計資料」



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら

TEL 03-5689-3358

MAIL 401k@member.deco-pa.com

一般社団法人確定拠出年金推進協会

東京都文京区後楽 2-2-14 トーラスビル 1F

<https://www.deco-pa.com>

